



# 未来へ

埼玉県立川越高等学校  
進路通信「未来へ」1号  
平成31年4月8日  
発行 進路指導部

## 昨年度の入試結果を見てみましょう！

◎ 過去3年間の主要大学入試結果 (4/8 現在)

国公立大学	2019春 合計(現役)	2018春 合計(現役)	2017春 合計(現役)
北海道大	10 (4)	11 (5)	8 (4)
東北大	10 (6)	12 (6)	11 (7)
筑波大	14 (11)	5 (3)	10 (6)
埼玉大	23 (18)	24 (20)	26 (13)
千葉大	6 (3)	7 (5)	6 (6)
東京大	3	1	1
東京工業大	7 (5)	4 (4)	4 (4)
一橋大	11 (7)	3	6 (4)
東京農工大	8 (5)	14 (11)	21 (15)
東京学芸大	4 (3)	5 (4)	6 (6)
東京芸術大	1 (1)	1	1 (1)
東京外国語大	5 (3)	4 (3)	2 (1)
東京海洋大	3 (2)	2 (1)	1
電気通信大	2 (1)	3 (1)	3 (1)
横浜国立大	12 (4)	1	3 (2)
名古屋大	2 (1)	1	2 (1)
神戸大	3		1
京大	1	6 (5)	2 (1)
大阪大	1	1	2 (2)
九州大	2 (2)	1	
首都大学東京	8 (5)	10 (8)	5 (3)
国公立医学部(医学科)	7 (1)	4	6 (2)
その他の大学	38 (13)	24 (13)	28 (13)
合計	174 (94)	140 (89)	149 (90)

私立大学	2019春 合計(現役)	2018春 合計(現役)	2017春 合計(現役)
早稲田大	92 (60)	79 (40)	77 (43)
慶應義塾大	36 (13)	25 (14)	32 (20)
上智大	11 (3)	19 (3)	21 (12)
東京理科大	93 (58)	77 (39)	101 (56)
明治大	146 (91)	122 (79)	138 (84)
青山学院大	11 (6)	13 (11)	10 (9)
立教大	51 (30)	49 (26)	59 (36)
中央大	72 (27)	70 (50)	74 (43)
法政大	85 (38)	84 (53)	53 (21)
学習院大	13 (4)	14 (11)	15 (6)
芝浦工業大	66 (36)	63 (43)	79 (50)
私立医学部(医学科)	15	6	5 (1)
その他の大学	348 (150)	291 (143)	299 (127)
合計	1024 (516)	906 (512)	958 (507)



## 昨年度の入試全体を振り返って

ここ数年のトレンドとしては、2020年度からの大学入試改革が近づくにつれ、特にその改革の対象となる国公立大学で、よりその場での思考力を問うような問題が徐々に増え始めています。国公立大、その中でも記述量が多い難関大を志望する人は、問題の変化に対応できるように、コツコツと学力を積み重ねてください、また、私立大学では、入学定員の厳格化（入学定員を規定の割合<昨年度は入学定員8000人以上の大学で定員の1.00倍>を超えた大学には、その分の補助金が不交付になる）の影響で、ここ数年の“私大は受かりにくい”という意識がさらに広まりました。その結果、難関私立大（早慶上理 GMARCH）では志望者が減少し、その分、日東駒専以下の大学の志望者が増加するという、安全志向の強い出願動向となりました。こうした状況では特に、難関大の合格ライン上にいる受験生が減少しますので、逃げずに勝負をした方が相対

的に有利になります。動向に流されずに、志望を下げず学力を積み重ねていくことが大切です。全体の志望傾向としては、近年の大卒の就職状況が好調なことを受け、昨年度も文高理低の傾向が続いています（とはいえ、例えば理系の情報系は志望がかなり集まっているなど、例外はいくつもあります）。ここ数年の文高理低の前は、完全に真逆の理高文低の状態だったので、理系の人気は低下しているというより、文系が理系並みかそれ以上の人気に戻したと言えるでしょう。1年生はこれから文理選択があり、2年生でも文系理系の選択にまだ迷っている人も多いと思いますが、全体の傾向は参考程度にして、自分自身の将来就きたい職業や、受験科目となる教科・科目の適性を十分に踏まえた上で、自分に合った選択をしてください。

### 本校の入試結果を振り返って

国公立大学については、ここ20年で過去最高となる合格者数となりました。特に現役生は、100人に迫る合格者数となりました。ただ人数が増えただけではなく、東京大学や一橋大学、横浜国立大学、筑波大学といった難関国公立大や医学部の合格者が増えており、質と量を兼ね備えたバランスの良い入試結果となりました。また、後期で現浪合わせて40名近くが合格しており、最後まで諦めずに粘り強く戦った生徒が多かったのも特筆すべき特徴です。今年度は、センター試験をもとに出願をする国公立の現行入試最後の年となります。昨年度の私立大がそうであったように、安全志向で志望を下げる受験生が全国的に増加することが予想されます。3年生の皆さんは、そのような時だからこそぜひ、最後まで志望を貫いてください。最後に合否を分けるのは、倍率ではなく学力です。その学力は、学習した時間と内容に比例して必ず伸びます。難関大を志望している人は特に、早期からの学習の積み重ねを心がけてください。勝負は入学時から始まっています。2・3年生はもちろんのこと、1年生も日々の学習を積み重ねていって下さい！

私立大学については、先述した定員の厳格化が激しくなる中で、昨年を上回る結果となりました。特に早稲田大学は、現役合格者が約1.5倍となり、全体の流れとは良い意味で逆行する結果となりました、理由として考えられることとして、2点あります。1点目は、昨年の3年生の私立大志望者たちは、例年以上に生活面でも学習面でもしっかりとした生徒が多かったことです。これは受験生全般に言えることですが、受験勉強で疲れている中でも、遅刻や欠席をせずに、しっかり学校に来てコツコツ学習を積み重ねられる生徒は、必ず伸びます。2点目は、先述したように合格ライン上の受験生が志望を下げる中で、志望を最後まで貫いた生徒が多かったことです。これも受験生全般に言えることですが、志望を下げずに頑張った生徒は必ず伸びますし、昨年度はその努力が報われる受験環境となりました。ただこちらでも、大切なのは学力です。3教科だからと気を抜かずに、その3教科のスペシャリストになるつもりで、早期からの学習を重ねてください。

### まずは学習習慣の確立を！！<今年も！！>

毎年のこの号に載せていますが、今年もまた改めて載せます。日々の学習の参考にしてください。

#### (1) 毎日の絶対的な学習時間を確保する

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間（電車などの通学時間、学校での休み時間など）を活用するのはもちろんですが、特に数学や理科の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間（最低でも1時間以上）を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによってタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。毎日の学習時間の総合計としては、平日：(学年+1)時間、休日：(学年+3)以上を目指してください（難関大志望者は平日：(学年+2)時間、休日：(学年+4)時間以上）。余談ですが、過去；東大と医学部に合格した先輩は、それぞれ夏休みに合計500時間（1日平均10時間以上）やっていました。時間をしっかりかけた学習をしましょう。あと、スマホは1日30分まで！！<某予備校の調査では、現役合格者の1日のスマホ平均使用時間は、ゲーム0分、ラインなどの連絡・通話30分、でした！！>

#### (2) 目標を高く持つ

大学入試で大切なのは、“行きたい大学”を高く掲げることです。“東大とか自分が目指しているのかな…”と言う人もたまにいますが、川越高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです（川越高校生は目標とした大学の分だけ伸びます）。“この大学を志望しているんだ！！”と臆せずに言ってみてください。同じような仲間がきっといるはずです。そういう仲間をお互いに見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。